

ツバメシジミという和名は、尾状突起がツバメのスマートにとがった羽先をイメージさせることからきていると思いますが、近隣でみかける小さくてかわいいシジミチョウの仲間の多くは、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ルリシジミなど、このような尾状突起がなく、これら普通種とほとんど同レベルにありふれたシジミチョウで唯一尾状突起をもつチョウとして目立つ存在です。♂



50525 志方町



May 27, 2004. 松波町

翅表のブルーの濃さもヤマトシジミやルリシジミに比べるとより深みのあるブルーであって、太陽光線のあたり具合ではとても美しく輝きます。♀

の方はほぼ黒一色で雌雄の差は歴然ですが、後翅尾状突起の根元に、みごとに美しいオレンジ紋があります。そのオレンジ紋には目玉を思わせる黒い模様があって、小鳥などの天敵に対し、こちらが頭だごまかすための自然が創り出した妙です。じっと静止した状態で尾状突起のある後翅を左右交互にすりすり上下に動かして尾状突起をアンテナ（2本の頭部触角）に偽装し、その根元が目玉模様によって実際はお尻側なのに鳥にこちらが頭だごまかすような戦法で、やや羽を閉じた状態の♀写真が、ちょうど左後翅を上すりあげた状態を示しています。もう一方の♀

の写真はハギの若芽に産卵をしようとしているところです。ツバメシジミは非常に幅広い食性で、ハギ類一般、クサフジ、カラスノエンドウなどの雑草を食エサとするため、北海道から種子島あたりまで広く分布しています。北海道では春に出る早に、翅全体に青色鱗粉が広がる美麗タイプが認められ、チョウ愛好家に珍重されているようですが、身近でもいくらかブルー鱗粉のある♀をみることができます。



June 21, 2008 志方町 ♀



Sep. 9, 2008
志方町 ♀

その後、翅表の美しいブルーの映像を記録できたので追加しておきます。

その後、翅表の美しいブルーの映像を記録できたので追加しておきます。



Apr. 21, 2010



ツバメシジミ♂

2010/04/21
11:46